

株主通信

2023年6月 No.56

2022年度報告(2022年4月～2023年3月)

特集

中期経営戦略2024の進捗

秋田県・千葉県沖の洋上風力プロジェクト
人的資本の価値最大化



Top Message

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

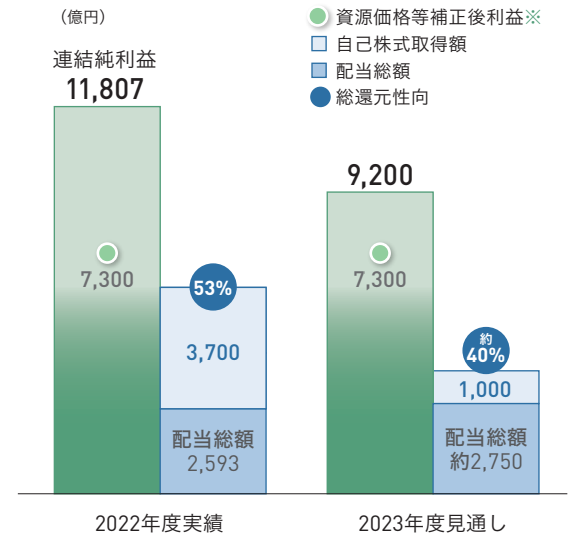
2022年度の決算、2023年度の業績見通し及び配当についてご報告申し上げます。

2022年度の連結純利益は、前年度比2,432億円増益の1兆1,807億円となりました。市況の追い風を受けつつも、コロナ回復後の事業環境を着実に収益につなげた結果、前年度の過去最高益を大きく上回り、当社初の1兆円台に到達いたしました。

本業績を踏まえ、2022年度の年間配当は、1株当たり180円としました。また、財務健全性やキャッシュ・フローの状況などを総合的に勘案した結果、2月に公表した1,700億円に加えて、追加で2,000億円を上限とする自己株式取得を決定しました。

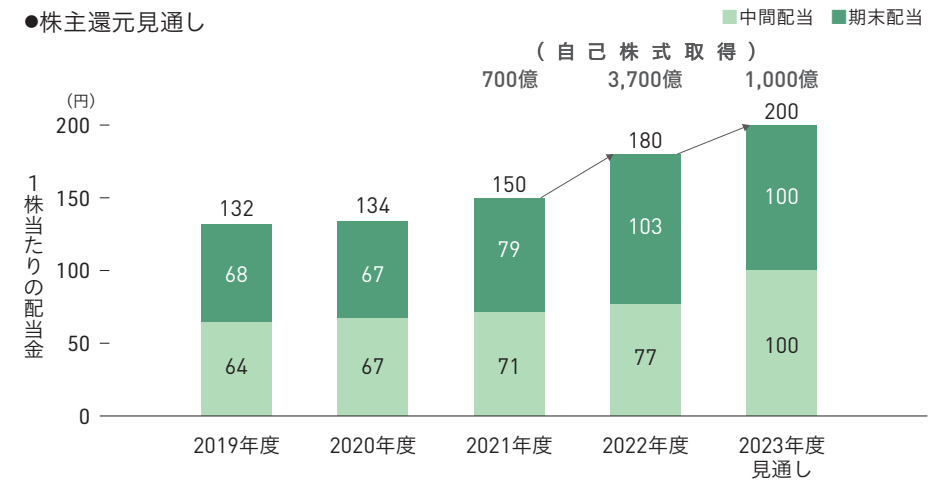
2023年度は、資源価格や為替を中心に、経済全般で過熱気味であった市況が落ち着きを取り戻す前提とした上で、連結純利益は9,200億円としており、2022年度に引き続き高い水準となる見通しです。利益水準の底堅さなどを踏まえ、配当は、2022年度から20円増配となる1株当たり200円に引き上げます。加えて、総還元性向約40%を念頭に、上限1,000億円の自己株式取得を決定しました。

●2022年度決算・2023年度業績見通し



※中経策定時の2024年度価格前提に補正した場合の利益。従来の「価格要因を除いた利益」から名称変更。

●株主還元見通し



『中期経営戦略2024』成長戦略の進捗状況

EX戦略

本中経期間中に約1.2兆円のEX関連投資を計画する中、2022年度に実行した0.3兆円に加えて、2023年度以降も既に0.5兆円の新規投資をコミットしています。200件を超える案件から、本中経期間に実行したいと考える優先度の高い案件を100件程度に絞り込んでおり、既に実行済みのものもありますが、本年度はさらに実行を意識して進めていきます。特に「低・脱炭素化」という観点では、4月に立ち上げた次世代エネルギー部門において、燃料アンモニア、SAF等の案件開発を加速させていきます。

EX関連事業は時間軸の長い取組も含まれていますが、今まで培った事業知見を活かし、先見性を持って優良資産に投資することで、安定収益やキャピタルゲインにより、十分な収益性を確保すべく取り組んでまいります。

DX戦略

DXによる、社会全体の生産性向上と持続可能な価値創造を目指す中、食品流通DXや産業素材DX等、三菱商事の既存事業の効率化としてのDXを推進中で、具体的な成果も挙がってきています。また、DX戦略の推進を担う中核子会社のインダストリー・ワン、エムシーデジタルの機能拡張にも着手し、DX機能をサービス事業として展開すべく、取り組んでおります。

未来創造 (新産業創出／地域創生)

「EX／DX一体推進による地域創生」を実行するため、地域に根差したサービスの提供を通じて地域課題の解決と地域経済の活性化を両立させる「自立分散型コミュニティ」

の実現を目指しており、同じビジョンに賛同いただけるパートナーや、行政・自治体・地元企業との連携を通じて、再生可能エネルギーを起点としたカーボンニュートラル新産業を創出することで地域を活性化し、地域創

生を実現するという「未来創造」を、全社を挙げて進めていきます。本年4月には京都大学と連携した起業支援プログラムを新設し、産学連携により日本の技術を活用した新産業創出にも取り組んでまいります。



2023年6月
代表取締役 社長

中西 勝也

中期経営戦略 2024 の進捗

中期経営戦略 2024 の策定・公表から 1 年。成長戦略として掲げる EX 戦略、DX 戦略、未来創造（新産業創出／地域創生）の主な進捗をご紹介します。

EX 戦略



「低・脱炭素化」「再生可能エネルギー」「電化を支える金属資源」という切り口で案件を厳選し推進。

- **国内（秋田県・千葉県沖）で洋上風力 3 案件獲得** P8~11 へ
- Breakthrough Energy Catalyst (BEC) への参画
- Hollandse Kust West Site VI 洋上風力発電所の事業権獲得
- ペルー共和国 ケジャベコ銅鉱山生産開始
- 脱炭素に資するクライメイトテック関連企業への成長投資を行うファンド「Marunouchi Climate Tech Growth Fund L.P.」の設立

DX 戦略



AI やロボットを活用した物流効率化・最適化、自動運転など、産業横断型 DX を推進。

- DX による物流効率化・最適化：
 - ・ローソン向け三菱食品物流センターにおける食品流通 DX の実装開始
 - ・鉱山事業における自動運転採掘機器の導入
- 千葉、大阪等での大規模データセンターの開設

未来創造 （新産業創出／地域創生）

EX・DX を一体で推進し、社会課題の解決に貢献。



- 富山県で、サーモン陸上養殖事業設立
- AI 活用型オンデマンドバスを新たに 11 地域に導入
- 京都大学との連携による起業支援プログラム「京都大学・三菱商事 Startup Catapult」の新設
- **35 年ぶりとなる国内支店開設（秋田支店・銚子支店）** P8~11 へ

Breakthrough Energy Catalyst (BEC)

Microsoft 共同創業者ビル・ゲイツ氏が設立した脱炭素支援プログラムであり、研究開発を終えた脱炭素に資する技術を用いたプロジェクトへの投資やグリーン製品の引き取り等を行い、社会実装の加速を支援するものです。同プログラムは、三菱商事のカーボンニュートラル社会へのロードマップ、EX 投資方針にも合致することから、アジア域内企業初のアンカーパートナーとして参画しました。BEC の取組を拡大させ、プログラムの価値向上とカーボンニュートラル社会の実現に貢献することが期待されています。BEC の支援対象となる脱炭素技術は、当社の複数の部門・グループに跨る事業であり、それぞれの力を集結して

BEC で商業化した案件の日本・アジア展開や、他パートナーとの協業も目指し、事業推進と 2050 年カーボンニュートラル社会の実現に取り組んでいきます。



ビル・ゲイツ氏が設立した BEC プログラムに参画

Hollandse Kust West Site VI 洋上風力発電所

オランダ北西部沖合に位置する洋上風力発電所の事業権を獲得しました。同サイトは、オランダ国内の電力需要の約 3% を賅う規模であり、オランダ政府が推進する脱炭素化施策にも大きく貢献します。



洋上風力発電は今後の再生可能エネルギー拡大の中心を担う一方で、その推進には海洋生態系を含む環境との共生策が不可欠となります。本プロジェクトでは、環境負荷を最小限に抑えるべく、風車タービン設置レイアウト・風車土台の設計調整や、生態系の多様性を促進するサンゴ礁の造成等を実施予定であり、洋上風力発電の継続的な拡大に資するプロジェクトになると評価されています。

「総合力」で 地域と共に歩む

三菱商事は、中期経営戦略2024において「未来創造(新産業創出/地域創生)」を掲げ、再生可能エネルギー(再エネ)などの地域エネルギー資源の活用、カーボンニュートラル新産業の創出、地域課題の解決を通じた魅力ある街づくりをテーマとして、パートナーや自治体と共に、社会・産業課題の解決に取り組んでいます。

本特集では、秋田県・千葉県沖の洋上風力発電事業プロジェクトについて紹介します。

世界的に気候変動対策が求められる中、日本でも再エネの主力電源化が喫緊の課題となっており、海に囲まれた国土の特性を活かして、国を挙げて洋上風力発電に取り組んでいます。

2021年末、三菱商事と、三菱商事エナジーソリューションズ(現:三菱商事洋上風力)、中部電力子会社のシーテックなどで作る企業連合[※]は、秋田県沖と千葉県沖の3海域全てにおいて洋上風力発電を担う事業者を選定されました。事業者選定の決め手の一つとなったのが、「地域共生

[※]秋田県由利本荘市沖案件には、地元企業のウェンティ・ジャパンも参画しています。

策」。地元ニーズを具体的施策に落とし込み、入札時に複数の取組を開始していたことが評価されたと考えています。

本プロジェクトは、三菱商事が目指す2030年度までの再エネ発電事業の持分容量倍増・2050年GHG排出ネットゼロの達成に向けて欠かせないピースであり、三菱商事グループが欧州市場で10年以上にわたって洋上風力発電事業を担うことで蓄積したノウハウや強化してきた人材をフル活用して取り組んでいます。

地域共生なくして

この事業の成功はない

田中 俊一

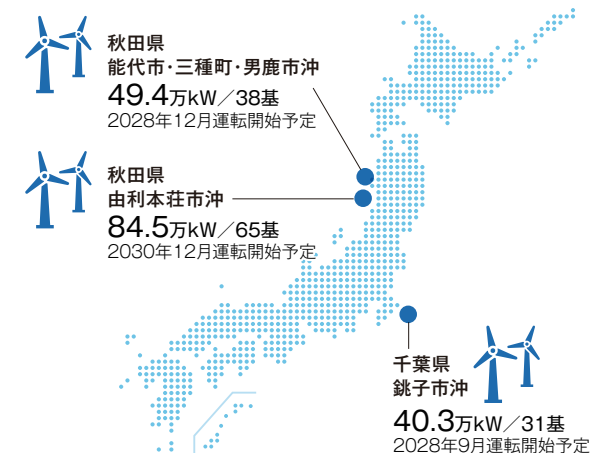
三菱商事洋上風力
社長



秋 田県・千葉県沖の洋上風力発電事業は、再エネ海域利用法に基づき公募入札された一般海域における初めての着床式洋上風力発電事業であり、エネルギー自給率の低い日本にとっては、エネルギー政策上も重要な電源となります。まずは、この3海域の事業を確実に実行することに全力を尽くしています。

また、洋上風力発電事業は30年の長きにわたって、国・地域の皆様から大切な海をお借りして事業を営むものですので、発電事業による直接的な経済価値・環境価値の創出だけでなく、地域が抱える課題解決にも貢献して社会価値を創出することが責務であると考えています。関係漁業者・地元企業・自治体を

はじめとする地域の皆様と連携し、三菱商事グループの総合力を活かして、自立・自律的な地域共生策を実行することで、地域社会の基盤づくりに大きく寄与したいと考えています。





銚子

2022年11月、三菱商事は国内支店としては35年ぶりに秋田支店と銚子支店を開設。EXとDXの一体推進による地域創生における事業・サービスの開発拠点として、地域との協業をリードするとともに、秋田県・千葉県沖の洋上風力発電事業を推進する三菱商事洋上風力や同社傘下のプロジェクト会社を、三菱商事グループの「総合力」で側面支援しています。今回は、本プロジェクトの成功に向けて秋田県と千葉県で全力を尽くす三菱商事洋上風力社員の奮闘ぶりを紹介します。



地域の方々との対話を重ね、期待に応える

三菱商事洋上風力 渥美 諒
秋田県能代市・三種町・男鹿市沖案件の地域共生を担当



秋田

秋田は農業・漁業が栄えていますが、人口流出による担い手の減少が深刻な課題となっています。若者の県外流出を解消するためには、洋上風力発電事業のサプライチェーンを構築することにより関連産業の振興と雇用を創出することが重要と考えています。また、秋田の地魚や日本酒などの秋田県産品の魅力についても発信していくべく、漁業協同組合、地元企業、自治体などと連携して、販路拡大に取り組んでいます。

加えて、国際教養大学にて世界や日本のエネルギー動向に関する寄附講座を実施。講義やディスカッションを通じて課題解決の思考

訓練を行うなど、秋田や日本の未来を担う人材育成支援にも取り組んでいます。

地元の方の話を聞く中で、地域の切実な課題や三菱商事グループへの大きな期待を実感していますので、引き続き、地域の課題解決に貢献すべく取り組んでいきたいと考えています。



国際教養大学で学生向けの寄附講義を実施



地元のためになる
取組を小さくても
積み重ねる

三菱商事洋上風力
黒田 かおり
千葉県銚子市の地域共生を担当

銚子の漁業者、市役所、商工会議所をはじめとする市内関係者の元へ足しげく通い、地域の課題に対して、三菱商事グループならではのソリューションが提案できないか、日々模索しています。

銚子名産のキャベツを使った餃子をローソンと連携して店頭販売し、販路を拡大できたことは、名産品の認知拡大に貢献できたと感じています。また、新規事業創造を目指す地域のリーダーを育成するビジネススクールを開催したところ、受講生の一人が、地域の野菜を使った農家レストランをオープンするなど、

人材育成の観点から地域産業の振興を目指す取組も実現してきています。

地域の皆様からの期待に応えるべく、手探りで取組を重ねていき、洋上風力発電事業を銚子の創生につなげていきたいと思っています。



畑で廃棄されてしまうキャベツを使い商品化

銚子における取組の詳細は[こちら](#)からご覧ください。

TEAM UP for a Sustainable World: 漁業の町・銚子で洋上風力発電事業がスタート



＼ イキイキ・ワクワク ＼ 活気あふれる人材と組織の実現

変化の激しい事業環境において、当社らしい総合力を発揮し、新たな価値を創造していくには、業界・分野を超えて多彩・多才な人材がつながりながら、「イキイキ・ワクワク」仕事に取り組むことが不可欠です。そうした活気あふれる人材と組織の実現に向けた取組をご紹介します。

●人材戦略 ～事業環境変化への対応力強化～

EX・DX一体推進などの成長戦略をはじめとした事業推進に向けて、個の能力をアップデートしながら、事業環境変化への対応力を強化しています。その中でも、DX推進力強化のため、以下の取組を行っています。

MC DX Advancement Program

全役職員を対象にIT・デジタルリテラシー向上を目的としたオンデマンド型研修プログラムを整備。自身の業務や目指す姿に照らし合わせ、

データデザインやDXプロジェクト管理など、レベルや役割に応じて段階的に習得できるプログラムとなっています。

MC Innovation Lab (MIL)

事業の立ち上げ・業務効率化を含むDX案件をリードする人材を育成することを目的に、新規事業やデジタル事業を担当する社員が、プログラミングや事業開発に関する講義を受けながらウェブサービスを開発するプログラムを2021年4月に開設。6カ月間の研修後、社内外有識者へ成果のプレゼンテーションを行い、コンテスト形式で評価します。これまで4期実施し、

100名超が受講。一部は事業化に向けて動き出しています。



●多様性を活かす企業風土づくり

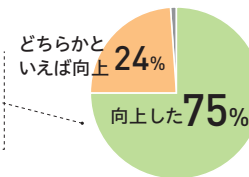
組織、世代、役職を超えたつながり促進のための環境整備など、多様性を活かす企業風土づくりに取り組んでいます。

タウンホールミーティング

社長と社員のコミュニケーション拡充を目的にタウンホールミーティングを定期的開催し、幅広いテーマで、社員からの質問や意見に社長が自ら回答しています。これらの取組を通じ、2022年度は本店在勤者に加え新入社員や国内外の駐在員等と対話を行いました。



参加者アンケートの結果
会社や仕事に対する
エンゲージメント向上

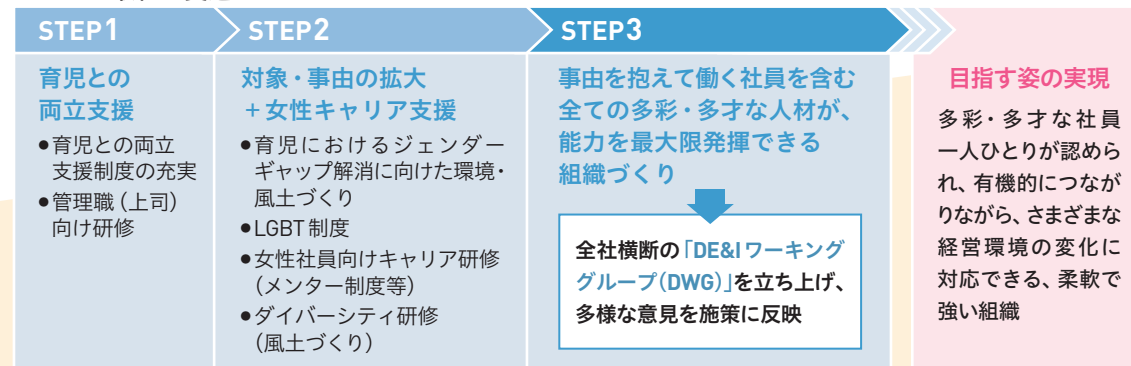


DE & I (ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン) ワーキンググループの立ち上げ

多様性を活かす企業風土づくりを推進する中、さまざまな視点を人事施策に反映していくことを目的に、「DE&Iワーキンググループ」を社長直下の全社横断組織として立ち上げました。所属や年齢、育児等との両立の有無等が異なるさまざま

な属性を持つメンバーで構成されています。多様な価値観を受容し、一人ひとりが最大限に能力を発揮できる環境整備を加速するべく、課題の整理・明確化、及びDE&I推進のための具体的な施策の計画・実行に向けて取り組んでいきます。

DE & Iの取組の変遷



三菱商事 CSR 50年史

1973年に社会環境室が設置されてから今年で50年。「インクルーシブ社会の実現」「次世代の育成・自立」「環境の保全」の三つの軸に沿った活動、さらに「災害支援」にも注力してきました。三菱商事CSRの歩みを振り返ります。

- 1973 ● 社会環境室を設置
- 1974 ● 母と子の自然教室開始
- 1990 ● 熱帯林再生実験プロジェクト開始 (マレーシア)
- 1991 ● 国際貢献施策開始
- 2005 ● サンゴ礁保全プロジェクト開始 (沖縄・オーストラリア)
- 2008 ● 三菱商事アート・ゲート・プログラム開始
- 2009 ● 森林保全プロジェクト「三菱商事 千年の森:彌太郎の森」開始
- 2011 ● 東日本大震災復興支援活動開始 (翌年 三菱商事復興支援財団設立)
- 2014 ● パラスポーツ支援プロジェクト「DREAM AS ONE.」開始
- 2019 ● 三菱商事高校生海外留学奨学金開始
- 2020 ● 子どもの貧困支援開始
- 2022 ● 自然を活用した気候変動対策 (Natural Climate Solutions:NCS) 開始

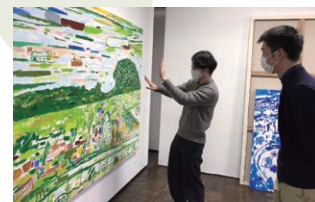
インクルーシブ社会の実現

母と子の自然教室

ひとり親家庭の母子を対象とした、人や自然との触れ合いを体験するキャンプ。これまでに約18,000名の母子と1,100名以上の社員ボランティアが参加しました。



次世代の育成・自立



奨学金

未来を担う次世代を育成し、その成長と自立を支え促進するため、教育、研究、能力開発の支援を目的として各種奨学金制度を実施しています。

「三菱商事 千年の森」(通称:彌太郎の森)

三菱グループの創業者の生誕地である高知県安芸市での森づくり事業。社有林と市有林の一部を含めた263haを「三菱商事 千年の森」(通称:彌太郎の森)と名付け、保全を行っています。

環境の保全



災害支援



東日本大震災復興支援活動

果樹農業の6次産業化を支援する「ふくしまワイナリープロジェクト」を推進。福島県産の果物を使ったワインやシードルを製造しています。

会社情報

コーポレートデータ (2023年3月31日現在)

社名	三菱商事株式会社
創立	1954年7月1日 (設立1950年4月1日)
資本金	204,446,667,326円
本店登記地	三菱商事ビルディング 東京都千代田区丸の内二丁目3番1号

取締役及び監査役は
[ホームページ](#)を
ご参照ください。

株式等の状況は
[ホームページ](#)を
ご参照ください。



株主メモ

証券コード	8058
上場証券取引所	東京
単元株式数	100株
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
期末配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
公告方法	電子公告

ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告ができない場合は、官報に掲載します。

〈公告掲載アドレス〉 <https://www.mitsubishicorp.com>

株主名簿管理人・特別口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

(連絡先) 〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
0120-232-711 (通話料無料)

(郵送先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

※住所変更等の各種手続きについては、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。

※支払開始日から満3年を経過していない未受領の配当金、及び特別口座に記録された株式に関する手続きについては、三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

株主通信の電子化について

株主総会資料の電子提供制度の導入に合わせ、**当社「株主通信」については2023年11月号より年1回の刊行とし、原則当社ホームページを通じてご提供させていただきます。**以降は当社ホームページより閲覧いただきますようお願い申し上げます。ただし、**株主総会資料の書面交付請求*を行っていただいた株主様には、当面は「株主通信」も書面でお送りします。**

株主通信の電子化に伴い、地球環境の保全・改善活動『株主の皆様と共に育む豊かな森づくり』は2022年度をもって終了いたします。2011年度の活動開始から、累計52万5,183本の植樹が実現しました。ご協力いただきました皆様に改めて感謝申し上げます。当社では引き続き、環境保全につながる社会貢献活動に取り組みまいります。

*インターネットを利用することが困難な株主様を保護するため、書面での受領を可能とする手続きです。

株主総会資料の電子提供制度/書面交付請求に関するお問い合わせ

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電子提供制度専用ダイヤル 0120-696-505
(受付時間: 土・日・祝日等を除く平日9:00~17:00)

本冊子は、見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。



『東洋の医・健・美』

2023年5月31日(水)～9月18日(月・祝)



『小宇宙鑑』レメリン
1639年刊

『十四経発揮』滑寿撰
1604(慶長9)年 京都刊



皆様、日々健やかに過ごしていますか。体に痛いところはありませんか。昔より風邪が治りにくくなった、漠然とした病気への恐怖に日々おびえている、そんなことはありませんか。本展では、古来アジアの人々がどのように不調やけが、病気と向き合ってきたのかを、日本医史学会の協力を得て、東洋文庫が所蔵する医療史の名著でたどります。

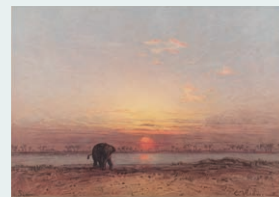
※記載の予定は変更となる場合があります。最新の情報は東洋文庫ミュージアムのホームページをご確認ください。

『海の東南アジア』(仮題)

2023年10月4日(水)～2024年1月14日(日)



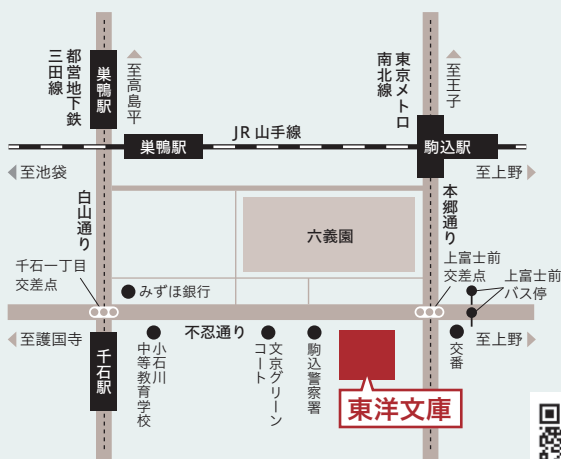
『インドシナ中央部の旅』
アンリ・ムーオ
1864年 ロンドン刊



『世界周航画集』
エデュアルド・ヒルデブラント
1871～74年 ベルリン刊

今年、日本とASEAN(東南アジア諸国連合)は友好協力50周年を迎えます。日本にとって重要な地域でありながら、意外に知らないことの多い東南アジア。本展では東南アジア諸国の歴史と魅力あふれる文化、日本との交流の足跡について、親しみやすい視点でご紹介します。

東洋文庫ミュージアムのご案内



東洋文庫ミュージアムのホームページは[こちら](#)から→

住所 〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-21

TEL 03-3942-0280

入館料 一般 900円、65歳以上 800円、大学生 700円、高校生 600円、中学生以下無料 ※ただし、小学生は中学生以上の要保護者同伴
団体割引 20% (20名以上)
障がい者 350円(付き添いは1名まで350円)

アクセス 駒込駅(JR山手線南口、東京メトロ南北線2番出口)から徒歩8分
千石駅(都営地下鉄三田線A4番出口)から徒歩7分
上富士前(都営バス)から徒歩2分

開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
※9月8日(金)は午後2時最終入館、午後3時閉館

休館日 毎週火曜日(火曜日が祝日の場合は翌平日)、年末年始、展示替え期間

併設のレストラン「オリент・カフェ」もぜひご利用ください。

●営業時間

ランチタイム 午前11時30分～午後2時30分

デザートタイム 午前11時30分～午後5時30分

ディナータイム 午後5時～午後9時30分(ラストオーダー午後7時30分)

※定休日 火曜日(火曜日が祝日の場合は翌平日)

TEL 03-3942-0400

